

聖観音菩薩(サンスクリット語：Aryâvalokitesvara)

慈悲の女神・観音は、憐れみを求める全ての人に現れます。観音には多くの顕現があり、聖観音がその原型です。聖観音に典型的なように、左手は部分的に開いた蓮のつぼみを握っています。つぼみの周りのがく片は、衆生の欲望や不安を表し、開花する寸前のその下の花は、心の清浄に対する隠喩です。右手の身振りは蓮のつぼみの開花を暗示しています。

彫像は高さ 321cm でクスノキから彫られています。彫像のなめらかな仕上がり
と穏やかな物腰は平安時代後期(794~1185 年)の典型です。記録によれば、この彫像は観世音寺の大半が焼失した 1064 年以降の作品です。彫刻の様式と寄せ木造りがこの結論を裏付けています。